
編集後記

昨今、新聞に「大学改革」という言葉が載らない日はないほど大学改革には社会の注目が集まっています。しかし、「大学改革」の中身について皆さんの共通認識があるのでしょうか。政府の財政が苦しいため国立大学が財務的に自立すること、日本のものづくりは元気がないのでイノベーションに直結する研究成果を出すこと、これらのために学長のガバナンス強化が強調されています。しかし、これらはいずれも大学の本来の「目標」ではなく、もっと高邁な目標を目指すための「手段」の一つだと思います。大学は本来何を目指すべきか、社会から何を期待されているのか、そのためにいかなる改革をすれば良いか、ということが実は曖昧で、本質が捉えられていないように感じます。

大学本来の「目標」が曖昧なままでは、研究や「目指す将来世代の育成」のための教育とはどういうものかを考え、改革の実現に繋げることはできません。欧州には数百年の長い歴史がある大学がありますが、創立から今までの間には国の制度だけでなく、国さえも変わり、その間、危機感と背中合わせで苦勞し、悩み、現行の制度や考え方を創ってきました。その制度の表面だけを真似ても、源の魂が伴っていないように思います。

既に人類は、論文の peer review など、研究者の知的好奇心に基づいて「研究」を自立的に進める「科学のための科学」の方法を編み出してきました。また学生が、教科書に記載されている「専門知識の修得」の後、大学の研究室

に入れば、研究を進めることによる「課題解決」・「課題発見」のための「研究を通じての教育」（とそれに伴う人格の陶冶）も行われています。したがって、今、不足している本当に行わなければならないのは、次の2点ではないでしょうか。

①教育面では、今後も変容する社会情勢に対応し、心豊かな社会創造に貢献する気概と能力をもつ将来世代に必要な能力とは何かを明確にし、そのための「教育方法」の実践的研究。

②研究面では、社会的諸課題を解決するための研究「社会のための科学」の立上げと、それらが自立的に推進されるための方策。

これらはいずれも、人類の宿命ともいべき大きな課題です。①はグローバル化が進む中、優秀な留学生を増やすためにも必要です。本学会も「医療のための研究や教育」の観点から、本学会誌の発行を通じて、これらの一翼を担うことができ、将来世代の育成にも繋がれば、大変幸いです。

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻
／医工学研究科医工学専攻

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第45巻 第2号 (通巻第304号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円+税 (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成30年3月15日発行

編集者 公益社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 公益社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社